



「修祓の儀」 武藤 恒司

さきたま古墳公園 (行田市)

【講評】 火祭りの行事の前に行われる清めの儀式だそうです。さいたま古墳公園のロケーションを生かし、空を多めに入れたことで、暮れゆく感じがよく表されています。徐々に暗くなり、クライマックスがやってくる、そんな高揚感も伝わってくる作品です。



「トンボ追いし/あたしもトンボ見つけた」 小林 真佐雄

北浦和公園 (さいたま市)

【講評】 捕虫網を手に、トンボを追いかけている子どもたちの動きが、それぞれの世界に入り込んでいて、興味深い作品です。シャッターチャンスもさることながら、この距離感がいい雰囲気を出しているのだと思いました。



「舞い上がる笑顔」 千葉 真治

御伊勢塚公園 (川越市)

【講評】 カメラを上向きにセットし、男の子を高く掲げながらセルフタイマーで撮影されています。楽しそうな子どもの表情と、頭上に広がる緑を写し込んだ秀作です。発想もテクニックも秀でた実力が感じられました。



「夢見るカマキリ君」 樋口 幸太郎

荒川彩湖公園 (さいたま市)

【講評】 夜の公園は昼間とは違って変わって寂しいものですが、この作品は遊具のカマキリを主役に、天球の日周運動をとらえることで、ロマンを感じるムードある作品に仕上げられています。縦の構図を生かしシンプルにまとめました。

「jewelrypopulus」 八木田 直樹

秋ヶ瀬公園 (さいたま市)

【講評】 朝の光に透けるポプラの綿毛がきれいですね。よく見ると、あちらこちらに丸い玉ができています。風に飛ばされ、転がってできたものでしょうか、早朝の宝物ですね。逆光と地面すれすれのローアングルがこの美しさを際立たせています。



「訪問者」 高橋 尚義

県民健康福祉村 (越谷市)

【講評】 誰かがエサをやっているのでしょうか、カモメたちが一斉に向かってくる様子には目を見張るものがありますね。水面の揺らぎや映り込みも変化に富んでいて見所満載。カモメだけでなく背景の人物も要素として効いています。



「秋のお散歩コース」 荒川 京子

別所沼公園 (さいたま市)

【講評】 見ている側も、メタセコイアの林の中に入り込んだような、臨場感が感じられるところが素敵です。随分と立派に伸びた木々ですね。林の中を散歩する人がいることで、木の高さもよく伝わり、ずっと上を見上げたいような心地よさに溢れています。

「夏、真っただ中!」 村田 勝治

所沢航空記念公園 (所沢市)

【講評】 ひとつの枝にたくさんの蝉の抜け殻、なんだか蝉時雨が響いてきそうですね。小川では子どもたちの姿も見られます。夏真っ盛りですね。それでいて、蝉の抜け殻に儂い命を感じ、夏の盛りを惜しむような気持ちも込められていると思いました。



「イルミネーションの中から」 中村 有伴

国営武蔵丘陵森林公園 (滑川町)

【講評】 美しいイルミネーションを幻想的にとらえたところがいいですね。ソフトに仕上げたことで、光が滲み、おそらく肉眼で見たときよりもファンタジックな光景になったのではないのでしょうか? こんな明かりの中に入っているなんて、素敵なイベントですね。



「彩りの花畑」 丹羽 由美子

国営武蔵丘陵森林公園 (滑川町)

【講評】 色とりどりのルピナス畑に、乗り物が来るタイミングを見計らって撮った楽しさ溢れる一枚です。色鮮やかな発色が目に留まりましたが、よく見ると雨上がりのようです。しっとり感がプラスされ、楽しい中にも落ち着いた雰囲気に仕上がったのがよかったですと思います。



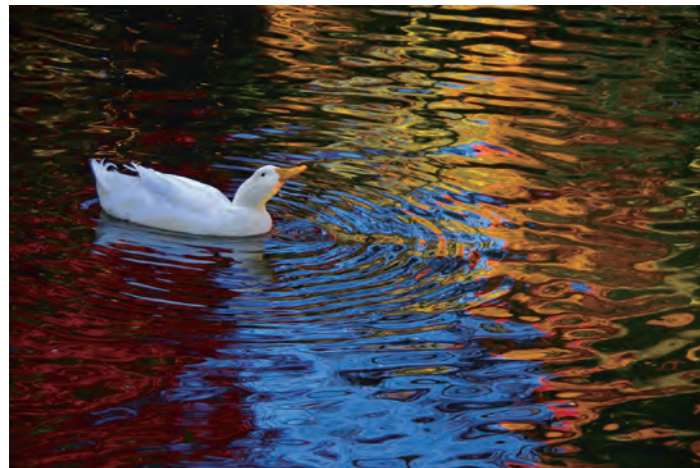




「明日をみつめて」 荻原 弘和

所沢航空記念公園 (所沢市)

講評 公園に展示されている航空機をバックに、家族の笑顔をとらえた、ほのぼのの写真。構図もよく計算されていて、非常にまとまりがいいですね。特に右上の空間が効いています。そしてとびきりの笑顔が、何よりも素晴らしい。撮る側の愛を感じました。



「色彩の中で」 尾内 泰

智光山公園 (狭山市)

講評 アヒルが水を飲んだところでしょうか、波紋の広がり水面に映りこんだ木々や青空の色彩を揺らし、なんと美しい光景でしょう。色の反射が白いアヒルの首を照らし、光の輝きを感じる素敵な作品だと思いました。

「君を想う」 竹市 克己

北浦和公園 (さいたま市)

講評 噴水のライトアップに浮かび上がる2組のシルエット。奥のふたりは子どもを抱いているのでしょうか。画面の中に現在と未来が描かれているような、余韻のある作品だと思いました。噴水の色や強弱も変わる状況だと思われすが、タイミング的にも、ベストの瞬間をとらえていると思います。



「真っ赤に染まる」 宮地 英敏

国営武蔵丘陵森林公園 (滑川町)

講評 まず目に飛び込んでくるのは、鮮やかに色づいたコキア。モコモコした形と、紅葉のグラデーションに目を見張りますね。遠景を入れることで、奥行き感が出て、広々とした空間の心地よさが伝わってきます。



「星のひかり」 志村 隼

国営武蔵丘陵森林公園 (滑川町)

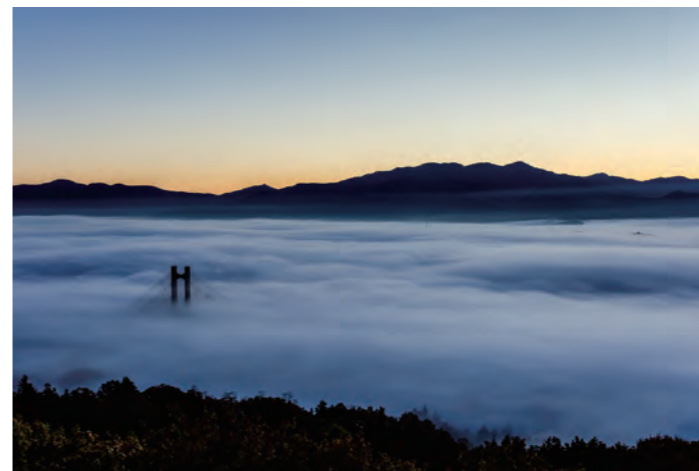
講評 女性が眺めているのは、ひょうたんで作られたランプ。その明かりが彼女の表情を浮かび上がらせて、魅力的な写真になりました。また、手前や奥の光のボケが、画面を一層華やかにしていて魅惑的です。



「春夜宴」 俵山 剛章

権現堂公園 (幸手市)

講評 夜空を彩る打ち上げ花火と、それを見物する人々。作者はその光景を、桜の花越しにとらえることで、花火の美しさだけでなく、春という季節をふんだんに盛り込んでいます。花火と桜の見事なコラボ作品となりましたね。



「雲海に浮かぶ橋」 蘆田 徹

秩父ミュージアムパーク (秩父市)

講評 あたり一面に立ちこめた雲海が、街全体を包み込み、夜明け前の寝静まった雰囲気を感じていると思いました。空のグラデーションも美しく、山陰や手前のシルエットが画面を引き締めています。

「春爛漫」 橋爪 悟司

川越公園 (川越市)

講評 画面から春の陽気があふれ出ている、ウキウキと気持ちが弾む素敵な作品だと思いました。ヒヨドリと中央の桜にしっかりとピントを合わせ、背後の桜をぼかすことで主題を浮き上がらせています。枝の間から見える青空も、さわやかさを伝えています。



「秋日和」 吉田 信正

巾着田曼珠沙華公園 (日高市)

講評 真っ赤な彼岸花にピントを合わせ、サイクリングの人物を背景にあしらうことで、花のあでやかさがより一層際立っています。秋の心地よい空気が感じられる開放感が魅力です。



「静かな1日」 赤坂 大樹

こども動物自然公園 (東松山市)

講評 窓辺でじっと雪を眺めているようなカンガルーの後ろ姿からは、寒さと静かさが伝わってきます。白い雪景色とシルエットが好対照で、画面を引き締めると同時に安定感のある構図を作りだしています。

